

令和7年度かわさきパラムーブメント意識調査 結果

(1) 調査概要

かわさきパラムーブメント全体及び「多様性と社会的包摂に関するレガシー」として
いる7つのレガシーの現状を把握するためにかわさきパラムーブメントに係る意識調査
をアンケートにより実施

(2) 実施日

令和7年12月24日（水）から令和8年1月7日（水）まで

(3) 対象者

ア 市民

市民のうちインターネットアンケートサイトに登録している2,000名を対象(市内在住
のアンケートサイト登録者数約35,000名を対象として実施し、統計として必要十分な
2,000件の回答があった時点で回答を締め切り)

イ 市立中学校の2年生（レガシー1のみ）

令和3年度から中学2年生を対象としてアンケートを実施しており、引き続き市立中
学校2年生（9,600名程度）を対象

(4) アンケートの回答状況

ア 市民（インターネットアンケート）

回答：2,000名（うち障害者手帳所持者 100名）
（内訳）

回答者	人数
障害者手帳所持なし ※答えたくない、わからない含む	1,900名
身体障害者手帳	29名
療育手帳	3名
精神障害者保健福祉手帳	53名
身体障害者手帳・療育手帳	2名
身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳	1名
療育手帳・精神障害者保健福祉手帳	2名
3手帳所持	2名
答えたくない・わからない ※手帳を持っていると回答	8名

【参考・R6 内訳】

回答：2,000 名（うち障害者手帳所持者 100 名）

回答者	人数
障害者手帳所持なし ※答えたくない、わからない含む	1,900 名
身体障害者手帳	39 名
療育手帳	4 名
精神障害者保健福祉手帳	47 名
身体障害者手帳・療育手帳	1 名
身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳	4 名
療育手帳・精神障害者保健福祉手帳	3 名
3 手帳所持	0 名
答えたくない・わからない ※手帳を持っていると回答	2 名

イ 中学生向けアンケート

回答：3,785 名（別紙参照）

(5) アンケート調査の結果

※表中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100にならない場合があります。

ア 障害の社会モデルとかわさきパラムーブメント

設 問：「障害の社会モデル」という考え方を知っていますか。

結 果：前年調査に比べ、認知度（知っている及び言葉だけ知っている）は0.1ポイント減少している。（29.6%⇒29.5%）

回答	人数	割合	前年比
知っている	222 名	11.1%	+0.5%
言葉だけ知っている	367 名	18.4%	▲0.6%
知らない	1,411 名	70.6%	+0.1%
合計	2,000 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

回答	人数	割合
知っている	211 名	10.6%
言葉だけ知っている	379 名	19.0%
知らない	1,410 名	70.5%
合計	2,000 名	100.0%

設 問：かわさきパラムーブメントについて知っていますか。

結 果：前年調査に比べ、認知度（内容も知っている及び名前だけ聞いたことがある）が0.7ポイント減少している。（19.2%⇒18.5%）

回答	人数	割合	前年比
内容も知っている	77 名	3.9%	▲0.3%
名前だけ聞いたことがある	291 名	14.6%	▲0.4%
知らない	1,632 名	81.6%	+0.8%
合計	2,000 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

回答	人数	割合
内容も知っている	84 名	4.2%
名前だけ聞いたことがある	300 名	15.0%
知らない	1,616 名	80.8%
合計	2,000 名	100.0%

設 問：「かわさきパラムーブメントのロゴ」を見たことがありますか。

結 果：前年調査に比べ、認知度は 1.8 ポイント上昇している。

(16.6%⇒18.4%)

回答	人数	割合	前年比
ある	367 名	18.4%	+1.8%
ない	1,633 名	81.7%	▲1.7%
合計	2,000 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

回答	人数	割合
ある	332 名	16.6%
ない	1,668 名	83.4%
合計	2,000 名	100.0%

イ パラムーブメント全体（総合計画の指標）

現 状：生活する上で、あなた自身はバリア（障壁）を感じている人の割合

設 問：「生活する上で、あなた自身はバリア（障壁）を感じますか。」という質問
にはいと回答した割合

結 果：前年調査に比べ、0.1 ポイント増加している。
(15.8%⇒15.9%)

(内訳)

回答者	人数	割合	前年比
手帳を所持していない人（1,900 名）	269 名	14.2%	+0.5%
手帳所持者（100 名）	48 名	48.0%	▲7.0%
合計(2,000 名のうち名が『はい』と回答)	317 名	15.9%	+0.1%

(バリアを感じる要因) ※『はい』と答えた 317 名が複数回答

	人数	割合
街中で移動をするとき	150 名	18.5%
施設を利用するとき	119 名	14.6%
公共交通機関を利用するとき	133 名	16.4%
ホームページやチラシなどから必要な情報入手しようとするとき	31 名	3.8%
社会的マイノリティであることで不当な扱いをされるとき	57 名	7.0%
困った時に周囲に気軽に助けを求めることができないとき	82 名	10.1%
周囲とコミュニケーションをとるとき	91 名	11.2%
就労を通じて社会に参加をするとき	57 名	7.0%
地域の活動に参加するとき	24 名	3.0%
文化・芸術やスポーツに関わる活動に参加するとき	19 名	2.3%
学校や職場で、必要な配慮がされていないとき	42 名	5.2%
その他	8 名	1.0%
合計	813 名	100.0%

【参考・R6 内訳】

回答者	人数	割合
手帳を所持していない人（1,900 名）	261 名	13.7%
手帳所持者（100 名）	55 名	55.0%
合計(2,000 名のうち名が『はい』と回答)	316 名	15.8%

ウ 各レガシーについて

【レガシー1 多様性を尊重する社会をつくる子どもを育むまち】

現状①：相手の立場になって、物事を考え行動することのできる中学生の割合

設 問：「困っている人を見かけた場合、自分から積極的に声をかける・手助けするなど、行動することはできますか。」という質問にできると回答した割合

結 果：前年調査に比べ、4.0 ポイント減少している。(48.5%⇒44.5%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
できる	1,686 名	44.5%	▲4.0%
困っている人から声をかけられたらできる	1,724 名	45.5%	+2.8%
できない	375 名	9.9%	+1.1%
合計	3,785 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

回答	人数	割合
できる	1,725 名	48.5%
困っている人から声をかけられたらできる	1,520 名	42.7%
できない	315 名	8.8%
合計	3,560 名	100.0%

現状②：心のバリアフリーが子どもたちに浸透していると思った人の割合

設 問：「子どもたちに心のバリアフリーの考え方が浸透してきていると思いますか」という質問に浸透していると思う、ある程度浸透していると思うと回答した割合

結 果：前年調査に比べ、2.1 ポイント上昇している。
(26.5%⇒28.6%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
浸透していると思う	53 名	2.7%	▲0.4%
ある程度浸透していると思う	517 名	25.9%	+2.5%
あまり浸透していないと思う	588 名	29.4%	▲3.1%
浸透していないと思う	261 名	13.1%	▲0.4%
わからない	581 名	29.1%	+1.5%
合計	2,000 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

回答	人数	割合
浸透していると思う	62 名	3.1%
ある程度浸透していると思う	467 名	23.4%
あまり浸透していないと思う	650 名	32.5%
浸透していないと思う	269 名	13.5%
わからない	552 名	27.6%
合計	2,000 名	100.0%

【レガシー 2 心理的バリアが解消されたまち～心のバリアフリー～】

現状①：自分とは違う他人を思いやることができる人の割合

設 問：「あなたは、日頃から相手の立場になって、その人の気持ちになって考えることを心がけていますか。」という質問に心がけている、やや心がけていると回答した割合

結 果：前年調査に比べ、2.4 ポイント減少し、悪くなっている。
(68.5%⇒66.1%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
心がけている	320 名	16.0%	▲1.8%
やや心がけている	1,002 名	50.1%	▲0.6%
あまり心がけていない	476 名	23.8%	+1.0%
心がけていない	202 名	10.1%	+1.3%
合計	2,000 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

回答	人数	割合
心がけている	355 名	17.8%
やや心がけている	1,014 名	50.7%
あまり心がけていない	456 名	22.8%
心がけていない	175 名	8.8%
合計	2,000 名	100.0%

現状②：心のバリアフリーを体現することのできる人の割合

設 問：「街中で誰かが困っている場面を見たことがある」と回答した 1,177 名のうち「自発的に助けた」及び「自発的に助けようとしたが、遠慮された、または断られた」と回答した割合

結 果：前年調査に比べ、1.7 ポイント減少し、悪くなっている。
(64.7%⇒63.0%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
自発的に助けた	543 名	46.1%	▲1.5%
自発的に助けようとしたが、遠慮された、または断られた	199 名	16.9%	▲0.2%
声をかけられたので助けた	185 名	15.7%	▲0.8%
助けなかった	250 名	21.2%	+2.4%
合計	1,177 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

回答	人数	割合
自発的に助けた	571 名	47.6%
自発的に助けようとしたが、遠慮された、または断られた	205 名	17.1%
声をかけられたので助けた	198 名	16.5%
助けなかった	226 名	18.8%
合計	1,200 名	100.0%

【レガシー 3 社会的バリアが解消されたまち～ユニバーサルなまち～】

現状①：ハードのバリアがあると感じている人の割合

設 問：「あなたが普段生活する場で、バリア（障壁）があると感じますか」という質問に「職場・学校」、「買物する場所」、「公共交通機関」、「普段通る道」にそれぞれバリアを感じる、ある程度感じると回答した割合（複数回答あり）

結 果：前年調査に比べ、0.9 ポイント減少している。
(26.8%⇒25.9%)

(内訳)

	職場・学校		買物場所		公共交通機関		普段通る道		総計		前年比
感じる	113 名	5.7%	81 名	4.1%	109 名	5.5%	167 名	8.4%	470 名	5.9%	▲0.2%
ある程度感じる	273 名	13.7%	373 名	18.7%	490 名	24.5%	464 名	23.2%	1,600 名	20.0%	▲0.7%
あまり感じない	374 名	18.7%	542 名	27.1%	481 名	24.1%	441 名	22.1%	1,838 名	23.0%	▲0.8%
感じない	633 名	31.7%	640 名	32.0%	560 名	28.0%	582 名	29.1%	2,415 名	30.2%	▲0.7%
利用しない	352 名	17.6%	111 名	5.6%	125 名	6.3%	107 名	5.4%	695 名	8.7%	+1.0%
わからない	255 名	12.8%	253 名	12.7%	235 名	11.8%	239 名	12.0%	982 名	12.3%	+1.5%
合計	2,000 名	100.0%	2,000 名	100.0%	2,000 名	100.0%	2,000 名	100.0%	8,000 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

	職場・学校		買物場所		公共交通機関		普段通る道		総計	
感じる	110 名	5.5%	86 名	4.3%	124 名	6.2%	168 名	8.4%	483 名	6.1%
ある程度感じる	283 名	14.2%	378 名	18.9%	550 名	27.5%	448 名	22.4%	1,659 名	20.7%
あまり感じない	423 名	21.2%	556 名	27.8%	440 名	22.0%	483 名	24.2%	1,902 名	23.8%
感じない	626 名	31.3%	673 名	33.7%	572 名	28.6%	600 名	30.0%	2,471 名	30.9%
利用しない	333 名	16.7%	95 名	4.8%	104 名	5.2%	87 名	4.4%	619 名	7.7%
わからない	225 名	11.3%	212 名	10.6%	210 名	10.5%	214 名	10.7%	861 名	10.8%
合計	2,000 名	100.0%	2,000 名	100.0%	2,000 名	100.0%	2,000 名	100.0%	8,000 名	100.0%

現状②：社会的マイノリティにとって、ハードのバリアがあると感じている人の割合

設 問：「あなたが普段生活する場で、社会的マイノリティにとってバリア（障壁）があると感じますか」という質問に「職場・学校」、「買物する場所」、「公共交通機関」、「普段通る道」にそれぞれバリアを感じる、ある程度感じると回答した割合（複数回答あり）

結 果：前年調査に比べ、2.7 ポイント減少し、良くなっている。
(32.9%⇒30.2%)

(内訳)

	職場・学校		買物場所		公共交通機関		普段通る道		総計		前年比
感じる	134 名	6.7%	111 名	5.6%	141 名	7.1%	193 名	9.7%	579 名	7.2%	▲1.1%
ある程度感じる	322 名	16.1%	458 名	22.9%	524 名	26.2%	536 名	26.8%	1,840 名	23.0%	▲1.6%
あまり感じない	413 名	20.7%	545 名	27.3%	499 名	25.0%	443 名	22.2%	1,900 名	23.8%	0.0%
感じない	497 名	24.9%	488 名	24.4%	431 名	21.6%	434 名	21.7%	1,850 名	23.1%	+0.4%
利用しない	338 名	16.9%	98 名	4.9%	112 名	5.6%	93 名	4.7%	641 名	8.0%	+0.7%
わからない	296 名	14.8%	300 名	15.0%	293 名	14.7%	301 名	15.1%	1,190 名	14.9%	+1.5%
合計	2,000 名	100.0%	2,000 名	100.0%	2,000 名	100.0%	2,000 名	100.0%	8,000 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

	職場・学校		買物場所		公共交通機関		普段通る道		総計	
感じる	151 名	7.6%	133 名	6.7%	175 名	8.8%	203 名	10.2%	662 名	8.3%
ある程度感じる	345 名	17.3%	479 名	24.0%	598 名	29.9%	547 名	27.4%	1,969 名	24.6%
あまり感じない	418 名	20.9%	554 名	27.7%	458 名	22.9%	470 名	23.5%	1,900 名	23.8%
感じない	492 名	24.6%	470 名	23.5%	412 名	20.6%	438 名	21.9%	1,812 名	22.7%
利用しない	325 名	16.3%	84 名	4.2%	95 名	4.8%	80 名	4.0%	584 名	7.3%
わからない	269 名	13.5%	280 名	14.0%	262 名	13.1%	262 名	13.1%	1,073 名	13.4%
合計	2,000 名	100.0%	2,000 名	100.0%	2,000 名	100.0%	2,000 名	100.0%	8,000 名	100.0%

【レガシー４ 誰もがスポーツ・運動に親しんでいるまち】

現状①：スポーツをする、みる、支える上でバリアを感じている人の割合

設 問：スポーツに関心のあると答えた 1,145 名のうち「あなた自身がスポーツをしたり、観戦したり、支えたり（スポーツボランティア活動など）しようとした時に何かしらのバリア（障壁）を感じますか。」という質問に感じると回答した割合

結 果：前年調査に比べ、2.4 ポイント減少し、良くなっている。

(33.9%⇒31.5%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
感じる	361 名	31.5%	▲2.4%
感じない	784 名	68.5%	+2.4%
合計	1,145 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

回答	人数	割合
感じる	399 名	33.9%
感じない	778 名	66.1%
合計	1,177 名	100.0%

現状②：社会的マイノリティがスポーツをする、みる、支える際にバリアがあると感じている人の割合

設 問：「社会的マイノリティの方がスポーツをしたり、観戦したり、支えたり（スポーツボランティア活動など）しようとした時に何かしらのバリア（障壁）を感じるがあると思いますか」という質問にあると思うと回答した割合

結 果：前年調査に比べ、5.9 ポイント減少し、良くなっている。

(64.7%⇒60.9%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
あると思う	1,218 名	60.9%	▲3.8%
ないと思う	782 名	39.1%	+3.8%
合計	2,000 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

回答	人数	割合
あると思う	1,294 名	64.7%
ないと思う	706 名	35.3%
合計	2,000 名	100.0%

【レガシー 5 誰もが文化芸術に親しんでいるまち】

現状①：文化芸術に携わる、鑑賞する際にバリアを感じている人の割合

設 問：文化芸術に関心のあると答えた 908 名のうち「絵画、写真といったアート作品や音楽、演劇などを鑑賞したり、自ら表現しようとした時に何かしらのバリア（障壁）を感じますか。」という質問に感じると回答した割合

結 果：前年調査に比べ、2.6 ポイント減少し、良くなっている。
(32.1%⇒29.5%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
感じる	268 名	29.5%	▲2.6%
感じない	640 名	70.5%	+2.6%
合計	908 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

回答	人数	割合
感じる	281 名	32.1%
感じない	595 名	67.9%
合計	876 名	100.0%

現状②：社会的マイノリティが文化芸術に携わる、鑑賞する際にバリアがあると感じている人の割合

設 問：「社会的マイノリティの方が絵画、写真といったアート作品や音楽、演劇などを鑑賞したり、自ら表現しようとした時に何かしらのバリア（障壁）を感じるがあると思いますか」という質問にあると思うと回答した割合

結 果：前年調査に比べ、3.8 ポイント減少し、良くなっている。
(49.5%⇒45.7%)

(内訳)

回答	人数	割合	前年比
あると思う	914 名	45.7%	▲3.8%
ないと思う	1,086 名	54.3%	+3.8%
合計	2,000 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

回答	人数	割合
あると思う	990 名	49.5%
ないと思う	1,010 名	50.5%
合計	2,000 名	100.0%

【レガシー 6 多様な主体が地域づくりに貢献しているまち】

現 状：地域活動に社会的マイノリティが参加している割合

設 問：地域活動に参加していると回答した 238 名の中で「その地域活動に社会的少数者（マイノリティ）の方（回答者含む）は参加していますか。」という質問に参加していると回答した割合

結 果：前年調査に比べ、参加していると回答した人の割合は 0.1 ポイント上昇し、参加していないと回答した人の割合は 3.9 ポイント減少している。

（参加している：28.1%⇒28.2%）

（参加していない：43.0%⇒39.1%）

（内訳）

回答	人数	割合	前年比
参加している	67 名	28.2%	+0.1%
参加していない	93 名	39.1%	▲3.9%
わからない	78 名	32.8%	+3.9%
合計	238 名	100%	

【参考・R6 内訳】

回答	人数	割合
参加している	72 名	28.1%
参加していない	110 名	43.0%
わからない	74 名	28.9%
合計	256 名	100%

【レガシー7 誰もが職業等を通じて社会参加できる環境】

現 状：就労、趣味、自己研鑽の場に社会的マイノリティが参加している割合

設 問：仕事や趣味、また、生涯学習（カルチャースクールや市民館等での学習活動等）などをしていると回答した 583 名の中で「その活動に社会的少数者（マイノリティ）の方（回答者含む）は参加していますか。」という質問に参加していると回答した割合

結 果：前年調査に比べ、参加していると回答した人の割合は 0.7 ポイント上昇し、参加していないと回答した人の割合も 1.2 ポイント上昇している。

（参加している：28.8%⇒29.5%）

（参加していない：43.1%⇒44.3%）

（内訳）

回答	人数	割合	前年比
参加している	172 名	29.5%	+0.7%
参加していない	258 名	44.3%	+1.2%
わからない	153 名	26.2%	▲1.9%
合計	583 名	100.0%	

【参考・R6 内訳】

回答	人数	割合
参加している	170 名	28.8%
参加していない	254 名	43.1%
わからない	166 名	28.1%
合計	590 名	100.0%